

「京都市市民参加推進フォーラム」との連携による生徒主体のテーマ形成とその実行可能性の充実を図ります。

京都市市民参加推進フォーラムは、京都市総合企画局が管轄する、市民参加の一層の推進を図るための行政への助言や提案を行う機関で、地域における市民の自主的な活動の支援や市民の力を高める取組、その他市民参加を総合的に推進するための取組の推進を図る目的で設置されている。



フォーラムに期待すること

✓ 外部コーディネーターとしての授業の併走

外部連携では、ネームバリューに頼った人選や第三者過ぎるご意見番的立ち回りによる形式的なものが多い。同フォーラムは高校連携を模索中であり、その点では両者がゼロベースで継続的・有機的に授業構築を行うことができる。単に監修役として関わるのではなく、外部コーディネーターとして授業に併走し、「子どもががんばっていることをおとなが応援する」を教育の視点、行政の視点から創りあげる。

フォーラムから提供を受けるもの

✓ ファシリテーター

授業の併走・監修はもちろん、そのための教員研修や生徒委員とのワークショップ等も含めて継続的・直接的に授業活動に関わる講師として同委員篠原幸子氏に依頼。

✓ 企画チェック

所属委員によるアクションプランの内容や進行への確認・評価の実施。

✓ 協力者紹介

生徒の企画立案の実行可能性を高めるための相談や協力者の紹介。

成果表出における連携のイメージ 参考資料 7

企画立案×チェック

年数回の企画チェックの場を設け、専門・第三者的立場から実現可能性に対する助言や助力。

制作×資材・環境提供

制作するものの材料や規模に合わせてその資材や制作環境の提供、実技指導などを行ってくれる先との調整。

提言×連携先提供

各種提言をまとめる際に助言や指導を行ってくれる専門家の紹介や提言を発表する場の設定。

イベント×開催場所提供

イベントを企画する際にその開催に適した場所や日程などを調整し、関係先と繋ぐなどの協働。

教員・生徒委員のファシリテート

ビジテックⅢスタートアップのファシリテート

アクションプラン審査

事業実行の相談・協力

- ☐ 教職員研修
- ☐ ■ 生徒委員(仮)キックオフミーティング

- ☐ ビジテックⅢテーマ選定
- ☐ 連携機関調整

- ビジテックⅡ成果交流会
ビジテックⅢ共通テーマ発表

- ビジテックⅡふり返り
ビジテックⅢ小テーマ形成

- 小テーマの個別探究
- ☐ 教員配置・探究方針検討

- 個別探究の交流
プレゼミ形成

- プレゼミアクションプラン作成
- ☐ プレゼミ巡回
連携先のマッチング分析

- ☐ ■ アクションプラン審査会
- 別ゼミ散策
- ☐ 所属ゼミマッチングワーク
- ☐ 所属ゼミグループینگ

- ☐ ■ 所属ゼミ決定

ゼミでの探究活動

ゴールイメージ
の設定と共有

アイデア創造
実験
試作
実施
評価
振り返り
フィールドワーク
仮説検証

- ゼミの成果表出
(成果物の完成・イベント実施など)

ゴールイメージ
の実現

- ビジテックⅢ成果交流会

- ☐ 教職員
- 生徒

12月

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

ビジテックⅡ

ビジテックⅢ

テーマ設定・個別の探究準備

プレゼミでの探究・別ゼミの探索

所属ゼミの決定・ゼミでの探究

生徒委員(仮)の創設

① 生徒の興味関心にマッチしたテーマ設定

学年共通テーマを設定するに当たり、より生徒たちが主体的に活動できるテーマとなるように、その設定のタイミングから代表生徒が授業づくりに参画させる。

② 代表生徒の「小さな先生」化

テーマづくりに参画すること、また、授業のうち1時間の回の中で生徒委員(仮)による情報共有会のようなものを設定するなどし、それぞれが意識も持って自分のゼミの活動を引っ張ったり、そのための全体としての目標やスケジュール感を共有していくことで、ゼミ活動の際の「小さな先生」としてチームを牽引する役割が自然発生的に醸成されることを期待する。

商業科・工業科教員によるチームビルディング

① ビジテックⅢ立ち上げ段階の授業進行

プレゼミの形成やアクションプラン作成などのワークの準備・進行・管理を行い、授業立ち上げ時のチームビルディング、ゴールイメージの設定・共有を主動し、活動の素地をつくる。

② 複数ゼミの監修・テクニカルサポート

所属ゼミおよび担当教員が決まったら、授業の主動を普通科教員に譲り、スーパーバイザー的な視点で複数の担当ゼミの困り事やサポートなどを行い通つ、各専門の知識や技術の指導にあたったり、外部との調整を行う。

普通科教員による授業のメンタリング

プレゼミ・別ゼミ探索を経て、自身の課題意識を持って選択、自己目標を設定して設定されたゼミ。そのゼミのメンバー構成や目標、準備段階の様子などを加味して普通科教員の所属ゼミを決定する。

出席・授業管理などはゼミ担当が行うが、あくまで「教員も所属ゼミの一員」として活動しながら、「GROWモデル(常に目標を確認・共有する)」の推進、チームや個人の活動が停滞したときに「メンタリング」を意識し、並走しながらともに解決する役割を大切にしたい。

GROWモデル

教える立場が教えられる立場を自発的に考え、行動させるための気づきと学びのサイクルを回すコーチングの基本スキル。
Goal(目標・欲しい結果)、**Reality Check**(現実の確認)、**Options**(選択肢)、**Will**(意志)のサイクルを意識し、**ゴールに向かう意志や、実行責任を果たす気持ちを大切にすることでチームや個人の成長を促す仕組み。**

メンタリング

教える立場から教えられる立場に対し、指示や命令を与えるのではなく、**双方が対等な関係の中で対話をし、学習者(メンティ)自身に考えさせ、自発的・自律的な発達を促す方法(メンタリング)とその立場(メンター)。**
対話を軸とし自分で考えさせるプロセスを経ることから時間も手間もかかるが、その中で信頼関係が深まることが期待される。

複数ゼミの監修・テクニカルサポート

「小さな先生」としてのチーム牽引に期待